文化十三年
同十四年
文化十三年
杜鵑行灰
へ13
2378
69

遠13
2378
69

文治高尾紅葉衣河
達摸様判官顕負 全六冊

曲亭馬琴作
歌川豊国画

仙崔堂
梓行

夫土手馬を葛西の陽ふ繋ぎ又牛島をそうせん寺の野ふ
吼らるむうしく。文治高尾ふよ〳〵経の浮名流す〳〵衣河汲ども
竭ぬ泉三郎。忠衡が精忠ふ説諦〳〵る黒白論碁盤ふ煩杖
つくくと男之介忠信ハ。獅子大奮振のあら支師。牡丹ふあ〳〵で
その須の紅葉豆腐も彼君ふ此二由縁の三郎平。つらくる浮世ハ
渡平ぶ飴。ぶつきり坊の弁慶ぶ。その隠宅ハ道哲庵結ぶ露の
みちのくの。ふこ木を安て二木ぶ隠深椎名の術の嵐ら。化あ〳〵す〳〵
源九郎ぬ夫婦狐ハ赤の飯。妹母厂岡ぶ〳〵炊きハ君ぶ為あとくぶえふ。
岩手の宮狼婆々ぶ。伎倆ハ山と山〳〵のそのあぐり屋の長物語。
馬鹿〳〵しいと思へども。独かも寝てらるされ絵ハ今茲も筆とるるのあら。

文化乙亥夏肆月上浣稿了
十四年丁丑正月発販

曲亭馬琴識

左金吾判官義經

夫木集
[illegible]
むりしへ
[illegible]
今[illegible]
身をうら松の
あふ世
[illegible]

泉三郎忠衡

浮世渡平

麥林集
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]の月

豆腐屋三郎平

山の井
松ひゝゝ
あさ
ま
の
ま
ち
た
狐の日哉
仁木達次郎
直衡
大和州の
源九郎狐

夜も
あけを
きゝふ
たゝなん
ゝごうけの
まざなる
ゝきて
せふ
を
ゆり
ぬく
大和州の
小女郎狐

荒獅子男之助
忠信
獅子
阿吽の
ほえ

変化
何の
風乃音
岩手山の
狼婆々
錦戸太郎
鬼連

屈岩手
東岡舎句集
蘂や
尾上の松ふ
夜の雪
妙母
庁岡

夫木
苔のうふきのふる
高尾
三浦
道哲庵の辨慶法師

イザ、
らうえん

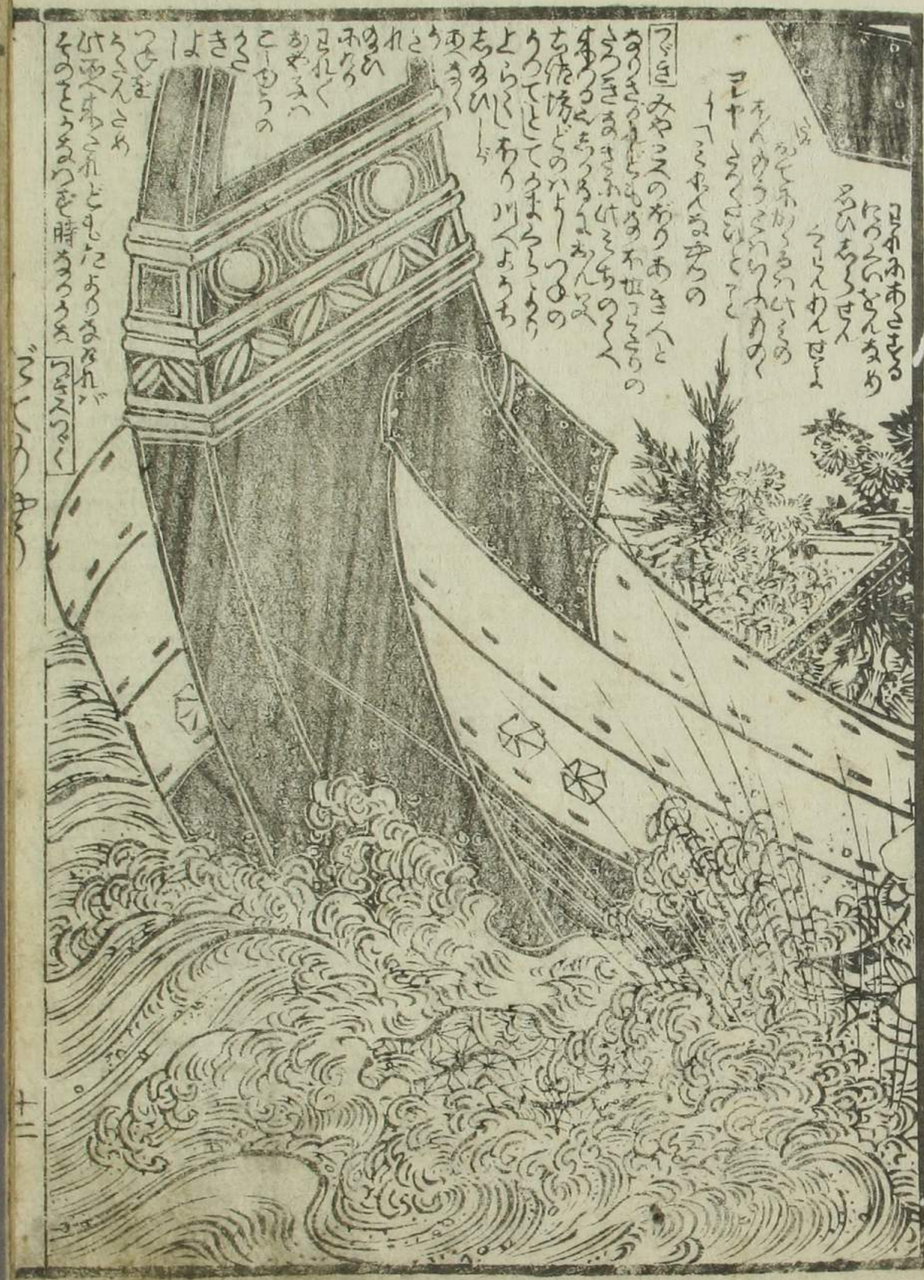
度
さ

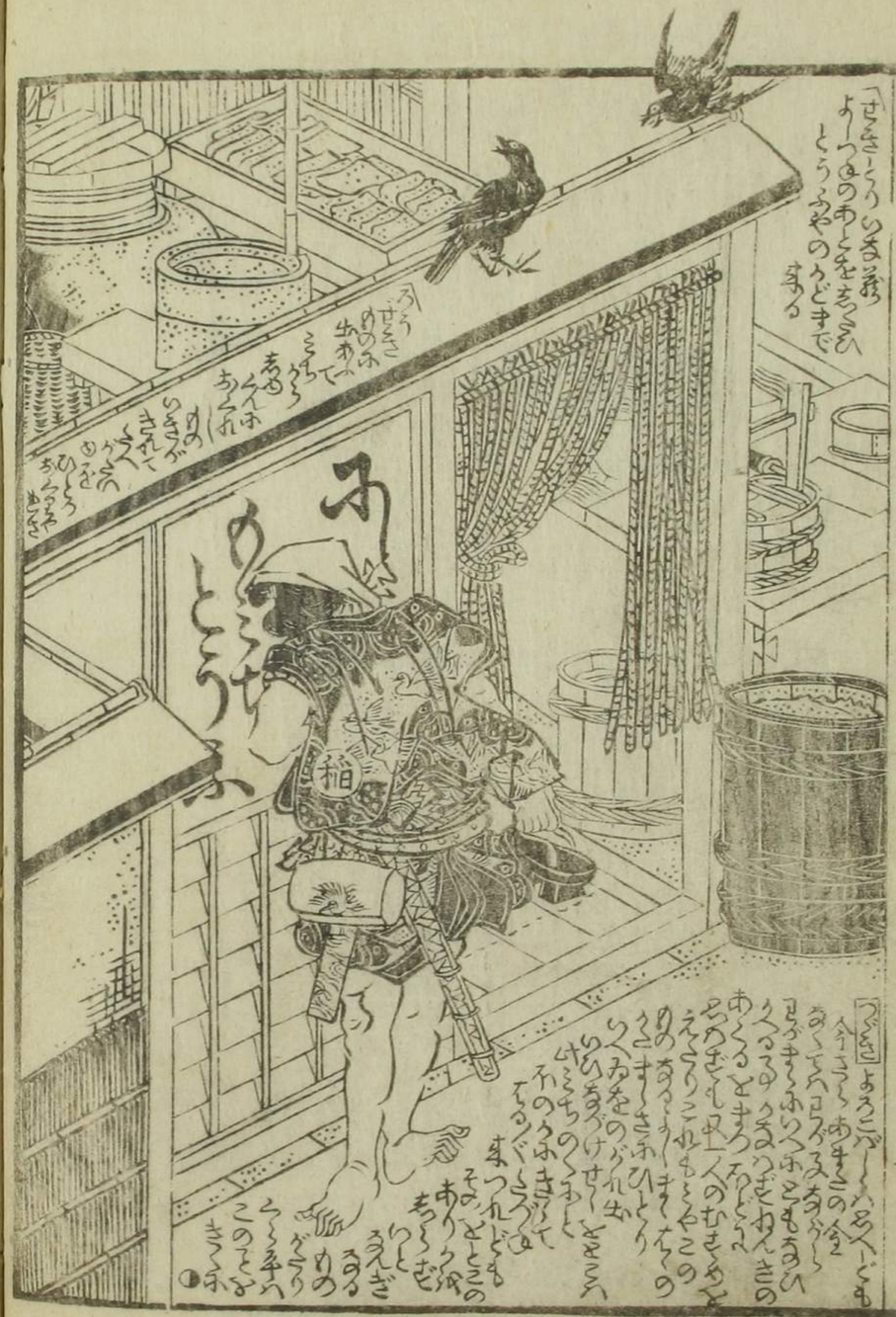
保

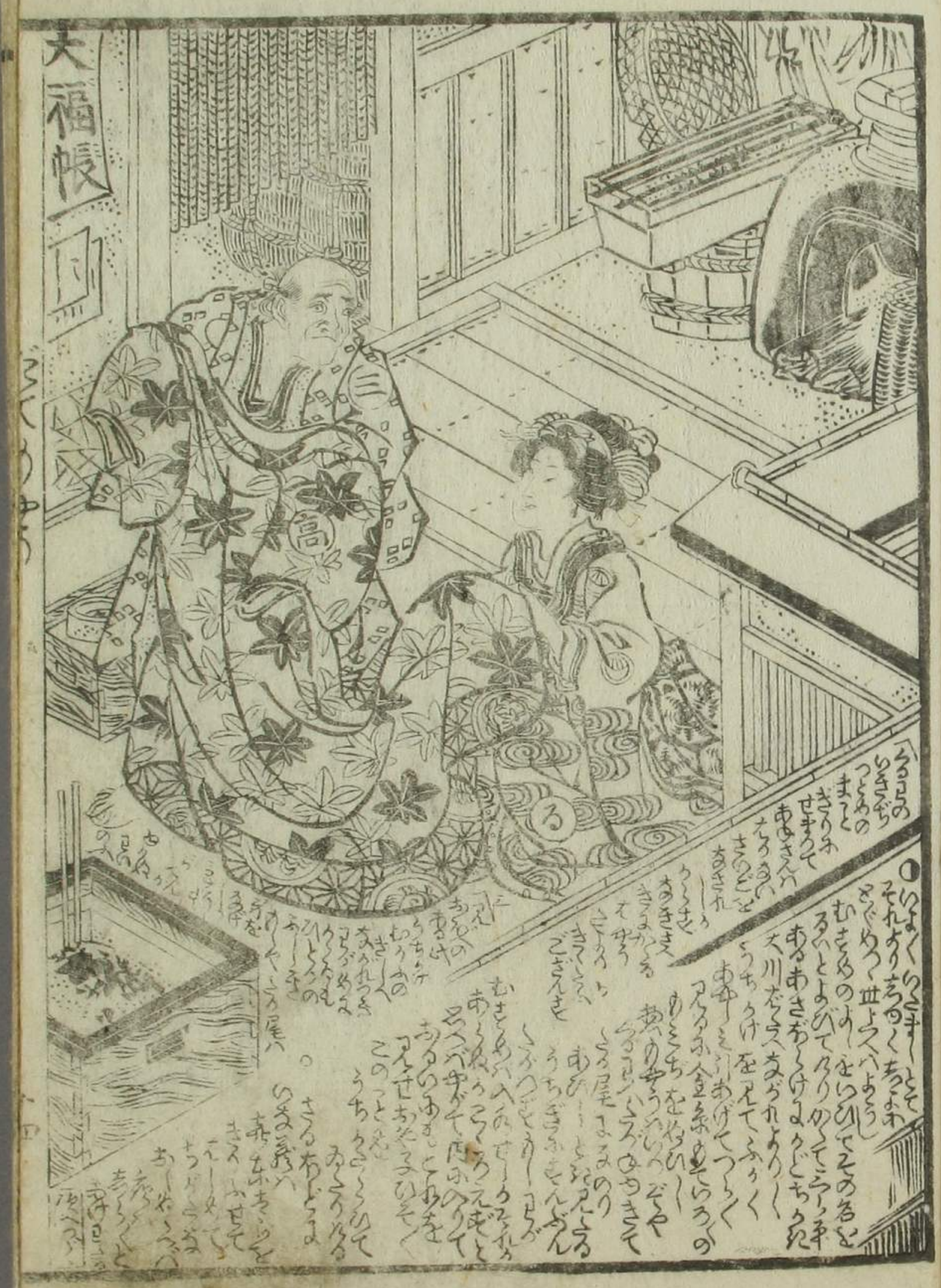
渡

高
尾
高

高尾丸
高尾
高


つぎは みやこのありあきくと
ありさうなれども あれはこちらの
そうきあきふけそちのくく
まるとちろるよわんと
ちはうどのいうつのの
うつてとてらまろろ
とらくしあり川くようち
ちるひしゝ
あきく
うれ
きれ
ふろ
ふれく
あやこへ
こーもうの
きる
よ
つぎを
くえんさめ
けあ
そのとうるつを時ろうる
つぎへつづく


稲


大福帳
高
る

稲
る

よ
三
高

判官贔屓

馬琴作
豊国画
鶴喜版

後編

豊國画

馬琴作

達磨相撲

仙雀堂板

曲亭馬琴作

歌川国貞画

渡
高

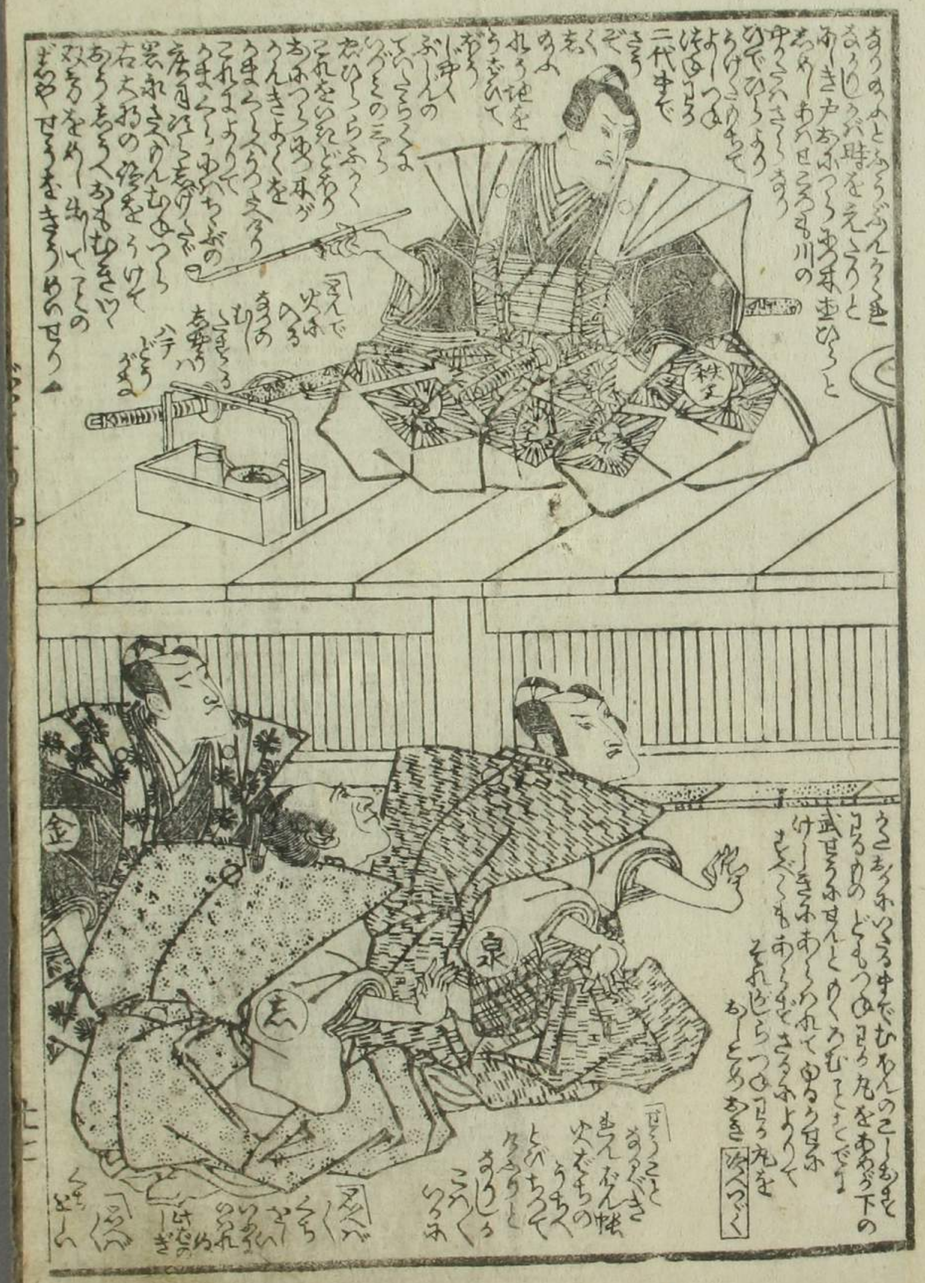
「ごぶさたのあむろへ
「ごぶさたのあむろへ
「ごぶさたのあむろへ
亀井

「ドロンノー
「ダアリ

泉
岩
上

岩

八



木

泉

桜

金

赤
緑
木

師
鬼

道

文化十甲戌春新板繪双紙目録

天竺本朝唐土西遊記 三國怪猿傳 全部 山東京傳作 十二冊 歌川豊國画

日本猿源氏 會談三組盃 全部 山東京傳作 六冊 勝川春扇画

皿屋敷 累女傳 全部 山東京山作 六冊 歌川國直画

柳屋於梅 細腰傳奇 赤前垂橋園護 全部 六冊 歌川國直画

雪と花 新月 葉櫻姫 卯月物語 全部 東里山人作 六冊 勝川春扇画

亀毛浮世八 元陽意記 全部 東里山人作 三冊 勝川春扇画

お房が手前寺屋紫硯 團七縞夏浴衣 全部 東岳庵鬼作 六冊 勝川春扇画

巳鳴鐘男道成寺 全部 曲亭馬琴作 六冊 歌川豊國画

目録ノ通りの彩色出板賣ひろめ申候 江戸芝神明前繪双紙問屋 和泉屋市兵衛 壽梓

[illegible]
[illegible]
[illegible]